



# こすもスマイル



発行／小林市立病院  
地域医療連携室

30号

平成30年3月7日発行

～事務部長のあいさつ～



日頃より皆様方には、地域連携に御理解、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

7月から当院に産婦人科の先生の着任が決まり、当院では2003年4月以来約15年振りの産婦人科医師の常勤体制のスタートとなります。

今回の西諸圏域内で分娩を取り扱う医療機関がなくなるという出来事は、地域医療だけの問題に止まらない「人口減少」や「地方創生」に大きな影響を及ぼす危機的な問題となりました。

この問題を受け西諸圏域の小林市、えびの市、高原町の首長は、地域の最重要課題として捉え、西諸医師会をはじめ3市町の議会議長や圏域選出の県議会議員と緊密な連携を図り、これまでに無いスピード感で協議を重ね、宮崎大学医学部産婦人科教授並びに宮崎県知事へ陳情や要望活動を行ないました。その結果、今回、当院へ産婦人科の先生の着任が決まったところです。

先生の英断と宮崎大学医学部産婦人科教室のご支援に心からのお礼と感謝を申し上げます。

また、3市町の妊婦さんへの経済的負担軽減を図るため3市町同額での出産支援金交付事業もスタートしています。

当院では、分娩再開に向けて病棟再編、助産師の確保や医療機器の整備などまだまだ越えなければならない多くの課題がありますが、関係各位のご協力をいただきながら体制整備を進めていきたいと考えていますので、これからも引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

私自身3月末日に小林市役所の定年退職を迎えます。2003年7月に市役所から病院事業に出向し約15年になりますが、至らないところが多々あり皆様には多大なご迷惑をお掛けしました。しかし、関係機関の皆様方や素晴らしい職員に支えられ何とか業務を遂行することができました。

最後に、皆様方のご多幸とご清栄をご祈念いたしましてあいさつとさせていただきます。

長い間本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。

小林市立病院 事務部長 角井 孝志

## 理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

### 【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



今回は

## リハビリテーション室

です。

### 地域包括ケア時代のリハビリテーション

以前より「リハビリテーション」とは、心身の機能障害やあらゆる能力障害に対して、主として病院や施設等で行われるものでした。しかし昨今の「地域包括ケアシステム」の中での役割はそれだけに留まりません。「リハビリテーション」することで障害の予防や改善、生活の再構築、自立生活の安定化、QOLの維持・向上を目指すとともに、これからは社会参加を支援し、「加齢による老いや障がいがあっても住み慣れたところで、その人らしく暮らし、自立した社会的存在であること」を担う役割があります。私が学生の頃（20数年前になりますが…）に先生から教わった「地域リハビリテーション」とは、「障害のある人々や高齢者及びその家族が、住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織と協力し合って行う活動の全て」と定義され、現在の「地域包括ケアシステム」そのものだと感じています。

その役割は、①早期ADL回復のためのリハビリテーション（急性期）、早期自宅復帰のためのリハビリテーション（回復期）、生活機能維持・向上のためのリハビリテーション（維持期）の共助、②疾病や暮らし方などの理解を深めるための支援や運動や生活を自己管理できるための支援、自立のための生活環境の工夫などにかかわる支援などの自助、③地域支援事業へのかかわりや包括支援センターとの連携、保健所や保健師との連携などの公助、④ボランティア活動や住民主体型活動の育成、交流の場の提供などの互助があげられます。我々リハビリテーション専門職は、身体機能だけではなくその人を取り巻く全ての環境を評価する技術が必要です。それらの結果を多職種と連携し、高齢者や障害をお持ちの方々の社会参加を支援することがリハビリテーション医学（チーム）といえます。

リハビリテーション室 室長 清水 秀一



# 症例検討会

## 第28回症例検討会を開催しました！

1月23日、当院大会議室にて泌尿器科医長 森 勝久先生を座長とし、院外からもご参加いただき、5演題の発表がありました。大勢の方々にお越しいただき、さまざまな意見交換ができました。

次回は4月末を予定しております。お気軽にお越し下さい。



1. 慢性呼吸不全患者の在宅療養生活の支援  
～地域包括ケアシステムの構築に向けて～  
居宅介護支援事業所 りぼん  
○愛内 勝子
2. 地域包括ケア病棟における患者・家族の  
ニーズに沿った退院支援  
～2症例を通して今後の退院支援を考える～  
小林市立病院 看護部 3階病棟  
○下園 友博
3. イレウス発生時に回盲部が左下腹部に  
位置していた症例  
小林市立病院 放射線室  
○斉藤 淳一
4. 横隔膜裂孔ヘルニアの一例  
小林市立病院 消化器外科・腫瘍外科  
○泊 賢一朗
5. ハンソンピンロックについて  
小林市立病院 整形外科  
○増田 裕介 中村 憲一

## 今回のお花



# 地域医療連携室よりお知らせ

**4**月より一部診療科の診察曜日が変更になります。

## 心臓血管外科

宮崎大学医学部附属病院 中村 栄作 先生

平成30年4月より**第2月曜日**へ変更

## 循環器内科

鹿児島大学病院 市来 仁志 先生

平成30年4月より**毎週金曜日**へ変更

※月によって診察日には変動があります。

また、完全予約制となっておりますので、ご予約の際は地域医療連携室までご連絡下さい。

### 三月 行事食 【ひな祭り】

#### お品書き

- ・春色ちらし寿司
- ・白身魚の桜蒸し
- ・菜の花のかき揚げ
- ・ごうめん汁
- ・ひなあられ



#### ひな祭りの由来について

ひな祭りは、現代日本において、女の子のすこやかな成長を祈る行事として定着しています。もともとは次の異なる二つの行事だったそうです。

##### ・「雛あそび」

貴族階級の子女が、天皇の御所にイメージした御殿や飾り付けをして遊ぶことで、健康と厄除を願う

##### ・「流し雛」

和紙で作った人形に災いを託して川や海へ流して災厄をはらう民俗行事

## 連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL : 0984-23-8225 (直通) FAX : 0984-23-8226

## 編集後記

新年を迎え、早くも2ヶ月が過ぎました。インフルエンザも流行していますが、皆さん体調はいかがでしょう？ 立春を迎えましたが、寒さはまだまだ厳しく、春がとても待ち遠しく感じます。春といえば、桜の季節。花見ですね！！ 去年は花見の機会を逃してしまい、今年こそは行きたいなあと思っています。

私事ですが、3月は子供の卒園式、4月は入学式があります。たくさんの行事を楽しみながら、春を満喫したいと思います。

地域医療連携室 瀧口 麻希